

※ 本リリースは国土交通記者会・交通運輸記者会に配布しております。

2025年3月26日

MICE アンバサダーに新たに6名の就任が決定！

日本政府観光局（JNTO）は、国際会議の誘致活動や国際会議開催の意義の啓発・広報活動を担う「MICE アンバサダー」として、新たに6名を任命しました。

今後、MICE アンバサダーとして、JNTOと共に、新たな国際会議の誘致や広報活動に取り組んでいただき、国際会議の開催が、訪日者増に加え、地元産業と学会との連携による地域の活性化や学術の振興、経済発展につながることを広く周知していただく役割を担っていただきます。

◆2025年度に新たに就任するMICE アンバサダーと選定理由（敬称省略・五十音順）



荒川 和晴（あらかわ かずはる）

慶應義塾大学先端生命科学研究所 所長／慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科 教授

- ・ 2023年4月より慶應義塾大学先端生命科学研究所（山形県鶴岡市）の所長を務め、生物学・先端生命科学分野のMICE誘致を推進し、地域の魅力発信と交流人口拡大に貢献。
- ・ バイオインフォマティクスとクマムシ研究の専門家として国内外の学会に参画し、2025年6月にはアジア初開催となる「第16回国際クマムシ学会」を鶴岡市に誘致し主催予定。



小田 義直（おだ よしなお）

九州大学大学院医学研究院形態機能病理学分野 教授

- ・ 日本病理学会の理事長および国際病理アカデミー日本支部の会長として、病理学の発展に寄与し、若手医師の育成や新たな診断技術の導入を促進。
- ・ 九州大学の国際会議誘致・開催において、戦略的なアドバイザーとしての役割が期待され、地域および日本全体の医療産業の発展に貢献。



柿沼 康弘（かきぬま やすひろ）

慶應義塾大学理工学部システムデザイン工学科 教授

- ・ 国際生産工学アカデミー（CIRP）の副会員として、プロセス制御や超精密加工に関する国際共同研究や国際会議の開催を通じて新たな知見を生み出し、研究者間のネットワークを拡大。
- ・ 日本で開催される生産工学に関する国際会議の誘致活動を行い、国際会議件数の増加や海外における日本のプレゼンス向上に貢献。





志賀 向子（しが さきこ）

大阪大学大学院理学研究科 教授

- ・ 第27回国際昆虫学会議の副議長として「Women in Entomology」プログラムを立ち上げ、特設ブースや市民公開講座を企画し、ジェンダーバランス改善に貢献。
- ・ 国際昆虫学会議評議員会で日本初の女性評議員に選任され、2024年度から日本動物学会と日本比較生理生化学会の会長を務める。



白石 晃司（しらいし こうじ）

山口大学大学院医学系研究科泌尿器科学講座 教授

- ・ 2012年に非閉塞性無精子症に対する内分泌療法によって、世界初の精子採取可能な症例を報告し、その治療法が国際的に使用されることに貢献。男性不妊に関する新たな術式についても報告。
- ・ 日本アンドロロジー学会での活動を通じて、泌尿器科および産婦人科医の生殖医療系学会において国際的な発言力を持ち、学会誘致に向けたアピールを行っている。



束村 博子（つかむら ひろこ）

名古屋大学 名誉教授／大学院生命農学研究科 特任教授

- ・ 日本繁殖生物学会理事長などを務める傍ら、名古屋大学男女共同参画室センター長等として23年間活動し、男女共同参画を強力に推進。学内保育所設置や女性教員増員策を実施。
- ・ 2017年の国際会議「WCRB 2017」で大会長を務め、沖縄開催をアピールして例年を超える参加者を集め、「国際会議開催貢献賞」を受賞。

※各アンバサダーの略歴については別紙参照

◆MICE アンバサダープログラムの概要

JNTOは、国内における国際会議開催の意義の理解度向上および海外における国際会議開催国としての日本のプレゼンス向上のため、専門分野において国内外に影響力のあるグローバルリーダーの方々をMICEアンバサダーに任命しています。本プログラムは2013年にスタートし、2025年3月現在、64名のMICEアンバサダーが活動しています。

【お問い合わせ先】

MICE プロモーション部 誘致推進グループ 野村・直井・軍司・河内

TEL : 03-5369-6015 E-MAIL : convention@jnto.go.jp



◆新任 MICE アンバサダー 略歴

荒川 和晴（あらかわ かずはる）

慶應義塾大学先端生命科学研究所 所長 / 慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科 教授

慶應義塾大学環境情報学部を卒業後、政策・メディア研究科修士課程（バイオインフォマティクス）を修了し、その後、博士号を取得。日本学術振興会特別研究員（DC1、PD）を経て、慶應義塾大学で特別研究助教、特任講師、特任准教授を歴任し、2017年より環境情報学部准教授、2022年より政策・メディア研究科教授に就任。2023年からは先端生命科学研究所の所長を務める。受賞歴として、2002年の ISMB Best Poster Award や 2016年の Oxford Journals JSBi Prize を受賞、2019年には山形県科学技術奨励賞を受賞するなど、国内外で高く評価されている。2022年に DGD Awards の Editor-in-Chief Prize（最も引用された論文賞）、2023年に SFC Faculty Award を受賞するなど、バイオインフォマティクス分野で国際的な影響力を持つ。

小田 義直（おだ よしなお）

九州大学大学院医学研究院形態機能病理学分野 教授

九州大学医学部を卒業後、同大学大学院医学系研究科を修了し、医学博士を取得。九州大学医学部整形外科に所属した後、1993年よりドイツ・マグデブルグ大学病理学教室でフンボルト財団奨学研究者として研究に従事。1998年に九州大学医学部助手（第二病理学講座）に就任し、1999年より同大学院医学系研究科講師（形態機能病理学）を務める。その後、2008年に准教授、2010年に教授に昇進し、2024年まで国際病理アカデミー日本支部の会長を務め、現在も日本病理学会の理事長として研究と教育に尽力している。受賞歴として、日本病理学会学術奨励賞（1999年）、日本病理学会学術研究賞（2001年）、国際病理アカデミー日本支部の病理診断学奨励賞（2002年）を受賞。また、2016年には日本病理学賞（宿題報告）を受賞し、その功績が広く認められている。

柿沼 康弘（かきぬま やすひろ）

慶應義塾大学理工学部システムデザイン工学科 教授

慶應義塾大学理工学部システムデザイン工学科を卒業後、同大学院で総合デザイン工学を専攻し、その後博士号を取得。2005年から慶應義塾大学で助手、専任講師、准教授を経て、2019年より教授を務める。2012年にはライプニッツ大学ハノーファーの客員教授として海外研究にも従事。受賞歴も多数あり、2012年に日本学術会議会長賞、2014年に文部科学省若手科学者賞を受賞。その後も、砥粒加工学会熊谷賞（2016年）、日本機械学会賞（論文）（2017年、2020年、2021年、2022年）、精密工学会沼田記念論文賞（2019年）などを受賞。工作機械や生産加工技術の分野で優れた研究成果を発表し、CIRP（国際生産工学アカデミー）や ASPEN（アジア精密工会）などの国際会議にて複数の Best Paper Award を受賞しており、国際的評価も高い。

志賀 向子（しが さきこ）

大阪大学大学院理学研究科 教授

岡山大学理学部を卒業後、同大学院で修士課程・博士課程を修了。1993年に大阪市立大学理学部助手として着任し、その後、講師・助教授・准教授を経て、2010年に同大学院理学研究科教授に就任。2016年からは大阪大学大学院理学研究科教授を務め、2019～2020年には大阪市立大学でもクロスアポイントメント教授として活動。研究業績が評価され、2002年に日本比較生理生化学会吉田奨励賞を受賞。また、長年にわたり理学分野での教育・研究・国際会議の誘致に貢献し、2024年国際昆虫学会議評議員会で日本初の女性評議員に選任され、2024年度からは日本動物学会および日本比較生理生化学会の会長を務める。現在も第一線で活躍している。

白石 晃司（しらいし こうじ）

山口大学大学院医学系研究科泌尿器科学講座 教授

山口大学医学部を卒業し、同大学大学院医学研究科を修了。その後、山陽小野田市民病院や済生会下関総合病院などで泌尿器科副医長を務め、2004年にはアイオワ大学薬理学部でポスドク研究員として研究に従事。帰国後、宇部興産中央病院や厚南セントヒル病院を経て、2008年に山口大学泌尿器科助教に就任。その後、講師、准教授を経て、2022年より教授を務める。2023年からは山口大学附属病院長補佐および医学部長補佐としても活躍。受賞歴も多岐にわたり、2001年に山口大学大学院医学研究科学長賞を受賞。日本内分泌学会 EJ 優秀論文賞、日本泌尿器科学会学会賞、日本癌治療学会最優秀演題、日本アンドロロジー学会特別賞など国内外で高く評価されている。2022年には Asia Pacific Association of Pediatric Urology Best Presentation を受賞し、国際的にも高い評価を得ている。また、日本泌尿器科学会理事、日本アンドロロジー学会理事、日本生殖医学会常任理事、日本性機能学会副理事長を務め、学会活動にも積極的に貢献している。

東村 博子（つかむら ひろこ）

名古屋大学 名誉教授／大学院生命農学研究科 特任教授

名古屋大学農学部を卒業し、同大学院農学研究科博士前期課程を修了。博士課程在学中に米国カンサス大学医学部へ留学し、名古屋大学で農学博士号を取得。1991年より名古屋大学農学部助手を務め、助教授、准教授を経て2013年に教授に就任。副理事（男女共同参画担当）や副総長（男女共同参画・多様性担当）など、大学運営にも携わり、2024年に名古屋大学名誉教授・特任教授に就任。研究業績として、1995年に日本家畜繁殖学会島村賞、2003年に日本下垂体研究会吉村賞、2023年に日本内分泌学会学会賞を受賞。生殖機能の神経内分泌メカニズムに関する研究で高く評価されている。また、男女共同参画推進にも尽力し、2022年には内閣府男女共同参画局「女性のチャレンジ支援賞」を受賞。研究と社会貢献の両面で優れた実績を持つ。

